



ちから

55

# 東日本大震災15年 学生ボランティア深化

## 復興から「教育・発信」へ

■政府も4月から「復興・創生」兼任上げ  
東日本大震災から今年11日で15年になる。多くの大学で、それぞれ被災地支援を続けてきたが、ここに来て、これまでの支援形態を振り返り、「新たな視点」で工夫する学生たちが増えている。

携へへの振換が模索されが目立ってきている。 ■神田外語大では「復興」を通じて、その核となるのが、被災体験を共有しながら「教育・発信」につなげようという新たな取り組みである。 15年の月日が流れ、被災した子供たちも大学生になり、大人になっていく。そうした若者たちが、自らの体験を語り、地域防災体制の構築に役立てようと、各地で交流会を開くようになった。 宮城教育大のある女子学生は、能登地方の小学校を訪問し、児童たちに語りかけるなど、積極



神田外語大の日英版震災復興新聞

政府の復興政策も、来年度から5年間の「第3期復興・創生期間」という繰上げの段階に移る。被災地の地域経済は、成長の道筋をいまだ模索しているものの、今は新たな産業育成や観光振興などに重点を移しているという。

復興の道に迷い、今年で廃止することになった。 宮城と岩手については、ハート面のインフラ整備などに「一定のめどがついた」とし、今後は有していた親友を津波で失った、その約束を果たすために、「命を守る」教育に「心のケア」など、より広い観点からの支援事業を進める方針だ。

復興当時「石巻市内の小学校1年生だったが、小学校の教員になる夢を共にしていた親友を津波で失った。その約束を果たすために、『命を守る』教育に『心のケア』など、より広い観点からの支援事業を進める方針だ。この新聞を福島県知事(内相雅雄)に贈呈し、岩手の大川小学校に、ボランティアの「スタディツアー」として年1、2回訪問している。これに対して「これまでの仲間と

の協力を得て、福島県の浜通り地域を訪問し、新しい産業や特産品、地域の目と耳で取材し、日本語と英語による震災復興新聞『福島とともに』(英語『together with Fukushima』)を完成させた。

「復興の道に迷い、今年で廃止することになった。宮城と岩手については、ハート面のインフラ整備などに『一定のめどがついた』と、今後は有していた親友を津波で失った、その約束を果たすために、『命を守る』教育に『心のケア』など、より広い観点からの支援事業を進める方針だ。この新聞を福島県知事(内相雅雄)に贈呈し、岩手の大川小学校に、ボランティアの『スタディツアー』として年1、2回訪問している。これに対して『これまでの仲間と

の想いについて聞いた。『只野の主宰をネットワークと知り、2019年、聖学院大を含む埼玉県内の4大学の学生が企画したボランティアアサミットを主催し、連携が強まった。『未来を拓く』は大川小の校歌のタイトルであり、『大川小から学び、それぞれの未来をひろく』ことに繋げてほしい。埼玉に住む私たちが、東北に関心をもち、関わることを意味について共に考えていきたい』という。 大川小をめぐる、東京工業大(東京都)でも企画展『語りよさを語る』大川小をめぐる15年の対話を、今月10日から22日まで開催する。芸術学部インタラクティブメディア学科アート&メディア研究室が主催し、研究室教授の野口靖之が3年生らが企画・運営する。 大川小で起きた津波事故を題材に学生が制作した作品をはじめ、遺族にふるまふ伝承や表現活動としての映像作品、アーカイブ資料などを展示し、関連する映像作品の上映やトークショー、ワークショップなども実施する。 『津波で亡くした親友との『約束』を胸に、高校1年の時に被災した阿部任(しん)は、震がどうのカードを持参し、毎年、震災が近づくと親友を宛名にした手紙を書いていることなど、研究領域が著実に育っている。 『復興』の準備は、津波という不測の事態に備え、命を守るために何が必要か、そんな実感が持たせることではないのか、と被災地の人たちは語る。 高橋だけでは、東北の各地の大学からは、子供の被災体験を語り、成長した学生たちが『次の世代に、何をどのように伝えるか』を考へる活動が活発化している。 『3・11メモリアルネットワー』の阿部によると、同年代が語り部として活躍する姿に、震災伝承に参加する若者たちが増えている。そして彼らの多くが、ただ悲しい記憶を伝えるだけでなく、聞いてくれる人々と共に、生き方の指針を考へるような伝承のあり方を模索している。 『自分は、家族を亡くすまで悲しみを経験していない』。夫体験のないことを『悲』に感じる学生たちがいることも確かだが、それでも、自らの意思で災禍を学んで伝えようとする姿に希望を感じている。 15年を経て、震災直後の緊急支援から、記憶の継承、防災の日常化、地域課題解決型の教育へ、と大学の役割は深化している。 (敬称略) 平山一城